

授業科目名・形態	健康づくりと生活 講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	田中 禮子	開講期	2年後期 単位数 2

※看護学科必修

【授業の主題と目標】

人々が日常生活、社会生活の中で健康的な生活を推進するために必要な知識と「考え方」を学ぶ。また、「公衆衛生学」を通して、人々の健康が自然・社会・文化的環境と深く関わっていることを理解し、人々の生涯にわたる健康に関する諸因子を考察する。

【授業計画・内容】

- 第1回 健康の概念と公衆衛生
- 第2回 人口統計とその動向
- 第3回 衛生行政
- 第4回 学校保健
- 第5回 成人保健
- 第6回 高齢者保健
- 第7回 感染症・食品衛生
- 第8回 環境要因による健康被害
- 第9回 国民健康・栄養調査から
- 第10回 社会保障と社会福祉
- 第11回 精神保健と障害者保健
- 第12回 産業保健、国際保健
- 第13回 タバコとアルコール
- 第14回 健康食品について考える
- 第15回 薬害について考える

定期試験

【授業実施方法】

講義。パワーポイント、教科書、配布資料を用いる。

【教科書等】

「よくわかる 専門基礎講座 公衆衛生」、松木秀明 編、金原出版

【参考文献】

授業の中で随時紹介する。

【成績評価方法】

試験成績、受講状況、レポート成績によって評価する。

【学生へのメッセージ】

- ・「新聞」等の報道に取り上げられる健康問題に注目しましょう。
- ・厚生労働省などで発表する種々の統計資料に注目しましょう。

授業科目名・形態	化学	講義	必修・選択の別	選択
担当者氏名	奥野智旦	開講期	1年~3年 後期	単位数 2

【授業の主題と目標】

化学は物質の構成単位（元素・原子・分子）とそれらの組み合わせ（化学反応）を理解し、物質を分析・創造して自然の解明や文明への利用を目的とする学問である。ヒトはエネルギー、医薬品、栄養、素材、生活用品等の化学物質を利用している。この授業では、化学の基礎を復習しながら、我々の生活や生命の仕組みに密着する代表的物質を取り上げ、現代物質文明を化学という学問領域から理解し、各自の教養となることを目的とする。

原子力および電池エネルギーの産生や有機化合物のプラスチック（ポリマー）・医薬品・栄養物および生物生産における遺伝子利用等と化学物質（分子）の関連・役割について学ぶ。

【授業計画・内容】

- 第1回 原子力エネルギーとは：原子・分子・元素の種類・放射性同位元素
- 第2回 ウランからどうしてエネルギーが生産されるの？・核分裂反応
- 第3回 原子力発電の仕組み・安全性・危険性と問題点
- 第4回 電池による電気エネルギーの生産：酸化・還元反応による電子移動・乾電池、燃料電池
- 第5回 太陽光や水素から電気エネルギーを作り出す太陽電池・水素燃料電池
- 第6回 プラスチックの種類と多様な機能・用途生活必需品とポリマー：多様な用途と化学合成の成果
- 第7回 プラスチックの化学合成，天然高分子と合成高分子
- 第8回 プラスチック廃棄物と環境問題
- 第9回 薬と化学：有機化合物の構成元素と部分構造・官能基
- 第10回 有機化合物の反応
- 第11回 西洋医薬・漢方薬，天然物から薬の発見・化学合成による薬の開発
- 第12回 ドラッグデザインとは，様々な薬（性ホルモン・鎮痛剤・麻薬）と化学構造
- 第13回 食品に含まれる元素・3大栄養物質（炭水化物・脂肪・タンパク質）
- 第14回 ビタミン・ミネラル，食品から得られる代謝エネルギー
- 第15回 食事の量と質，肥満と病気，世界の食料事情，食品保存剤

【授業実施方法】

講義

【教科書等】

最初の授業で説明

【参考文献】

「教養の現代化学」（三共出版），「実感する化学」（上・下）（NTS）

【成績評価方法】

出席状況・小テスト・期末テストの総合評価

【学生へのメッセージ】

食品をはじめ、身の回りのすべてが化学物質である。化学を理解して安全に賢く、21世紀を生きよう

授業科目名・形態	倫理と人間	講義	必修・選択の別	選 択
担当者氏名	柴田 博	開講期	2年～3年後期	単位数 2

※介護福祉士必修

【授業の主題と目標】

「人間」の理解を基礎として、人間としての尊厳の保持と自立・自律した生活を支える必要性について理解し、介護場面における倫理課題について対応できるための基礎となる能力を養う学習とする。「人間の尊厳」を理解するためには、「尊厳」の内容を具体化し、その過程を通して、介護を必要とする人の尊厳を守ることの意義や、配慮すべきことを理解する。授業修了時の達成課題（到達目標）は、人間の多面的理解と尊厳の保持、自立・自律した生活を支える必要性について理解して欲しい。

【授業計画・内容】

- 第 1 回 国連等における人権宣言等
- 第 2 回 日本国憲法における基本的人権と我々の生活
- 第 3 回 人間の尊厳と自立の意義
- 第 4 回 国際障害者年の理念、障害者権利条約の理念
- 第 5 回 尊厳と自立をめぐる歴史と仕組み
- 第 6 回 人間の尊厳・自立と生活
- 第 7 回 介護における尊厳の保持と自立支援の理論
- 第 8 回 介護における権利擁護と人間尊重
- 第 9 回 介護における自立支援
- 第 10 回 介護における尊厳の保持と自立支援の実践
- 第 11 回 人間関係とコミュニケーション
- 第 12 回 関係づくりのための人間理解
- 第 13 回 人間関係の形成
- 第 14 回 コミュニケーションの基礎
- 第 15 回 コミュニケーションの技法と実際

【授業実施方法】

講義

【教科書等】

介護福祉士養成講座編集委員会編『第1巻 人間の理解』中央法規出版

【参考文献】

必要時に資料配布

【成績評価方法】

出席状況、試験成績等による総合判定

【学生へのメッセージ】

介護における支援技術の中で、人間の尊厳と自立がどのように生かされているかを学んで欲しい。